

歴史と文化が薫るまちづくり事業 中間報告書

- ものづくり城下町を巡る -

平成 2 1 年 1 0 月 6 日

高 岡 市

目次

1	高岡市の概況と計画の位置づけ	2
2	計画区域の特性及び位置、区域	6
3	計画区域内の活用すべき地域資源	8
4	まちづくりに必要な事項	12
5	資産としての活用	17
6	歴史と文化が薫るまちの将来像	20
7	歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール	21
8	年度別事業費、費用負担割合	23

1 高岡市の概況と計画の位置づけ

(1) 計画の位置付け

高岡の旧町部は、町衆が築き上げた「ものづくり」の町として、数多くの優れた有形・無形の歴史的文化的地域資源がある。高岡市では、これらの地域資源を活用し、世界文化遺産の登録申請、歴史まちづくり法に基づく認定など、地域資源の持つ魅力を磨き上げるための施策を展開している。

世界文化遺産の登録申請に際しては、高岡城開城から廃城、その後の町人による繁栄といった独自の発展形態についての普遍性を整理し、現在は、文化庁の委託事業「文化財総合的把握モデル事業」として「歴史文化基本構想等」の策定に取り組む中で、地域資源（文化財）の悉皆調査を実施している。

これらの施策により、高岡には、「歴史と文化が薫るまちづくり」に必要な要素が集積していることが明らかである。

特に、高岡駅 - 高岡城跡 - 山町筋 - 金屋町で囲まれたエリアは、高岡繁栄とものづくりの歴史を最も感じることができる地域であり、地域の誇りであると同時に、広く全国、世界の人々に紹介する価値を有するものである。しかし、これら点在する地域資源をつなぐ仕掛けがあるとは言いがたい。

「歴史と文化が薫るまちづくり事業」では、今後、地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（通称；歴史まちづくり法）に基づく整備に先行し、あるいは法に基づく整備が進められればそれと連携し、高岡の魅力を正しく楽しく紹介できる整備を行うものである。

なお、本計画の策定過程においては、地域でまちづくり活動を展開している団体や住民の意見を聴きながら進めることとした。

(2) 高岡市の自然・社会的環境・歴史

本市の位置と地勢

高岡市は、富山県北西部に位置し、北は氷見市、南は砺波市、東は射水市、北西は石川県宝達志水町・津幡町、南西は小矢部市に接している。

市域は、東西約 24.5 キロメートル、南北約 19.2 キロメートル、面積は 209.38 平方キロメートルで、富山県全体の面積の約 5 パーセントを占めている。

市内の西側は山間地域で二上山とこれに連なる西山丘陵があり、東側は庄川・小矢部川によって形成された平野部は扇状地であり、良質の地下水が豊富である。また北東側は富山湾に面するなど、深緑と清らかな水に包まれ、四季折々に変化する豊かな自然に恵まれている。

気候は四季の変化が割合にはっきりしており、冬期には北西の強い季節風が吹き北アルプスの影響を受けて降雪量が多いものの、年間平均気温は 14 度前後と比較的

温暖な気候となっている。

まちづくりの歩み

ア．万葉のふるさと（古代）

高岡市の歴史は古く、越中文化の発祥の地といわれ、これを物語るかのように古墳の数は県内随一で、小矢部川流域の西山丘陵から二上山の麓を経て伏木・太田に至るまで数多くの古墳が分布している。

天平 18 年（746）には、万葉集の代表的歌人である大伴家持が越中の国守として国府（現在の高岡市伏木）に赴任し、在任 5 年の間に風光明媚な二上山や雨晴海岸などを愛でて詠んだ 220 首余りの秀歌を万葉集に残し、今日に万葉の心を伝えている。

イ．加賀藩のまちづくり（近世）

中世末期には、木舟城、守山城などの城を中心として城下町が形成された。

加賀藩の治世に入り、第 2 代藩主の前田利長は、異母弟の利常に家督を譲り、当時閑野と呼ばれていた高岡の地に城を築いた。こうして城下町としての高岡が開かれ、まちの基礎が形づくられたのが慶長 14 年（1609）。「高岡」の地名は、詩経の一節「鳳凰鳴けり、かの高き岡に（鳳凰鳴矣 于彼高岡）」から引用して、この地が繁栄することを願って利長が名付けたと伝えられている。

高岡城は、利長の死と一国一城令によって築城わずか 5 年で廃城となったが、利長を敬慕する利常の努力によって、武家のまちから商工業を中心とする町人のまちとして生まれ変わった。

その精神は、銅器・漆器に代表される伝統産業や近代産業に脈々と受け継がれ、「ものづくりのまち」高岡を支える柱となっている。

ウ．市制施行（近現代）

明治期になっても、高岡は商工業都市としてさらなる発展を続け、その隆盛ぶりは明治 22 年（1889）の市制・町村制の施行に伴い、全国で最初の 31 市のひとつとなる原動力となった。

その後、昭和 17 年（1942）に良港を有する伏木町を合併、戦後には周辺村部を編入し、昭和 41 年には戸出、中田両町を合併。さらに平成の大合併では旧高岡市と福岡町が合併を果たし、現在の市域となっている。

都市基盤の整備は、県内の他都市に先立って行われた下水道事業をはじめ、昭和 40 年代にかけて様々な都市施設の整備が進められた。その後も区画整理、市街地再開発、おとぎの森公園等の都市公園整備、市民病院の改築、万葉線の第 3 セクター化、ふくおか総合文化センター（Uホール）の建設、福岡駅舎の改築など都市機能を充実させてきている。

現在、高岡市は約 18 万人の人口を有し、県西部の中核的都市としての役割を担う

とともに、日本海側有数の産業都市として発展を続けている。

(3) 上位計画との関係

高岡市総合計画

平成 19 年に策定した「高岡市総合計画基本構想」のまちづくりの目標の一つに「心豊かな人をはぐくみ 万葉と前田家ゆかりの歴史と文化をたのしむまち」が掲げられ、地域に残る歴史資産の保存・整備・活用を通じたまちづくりを推進することがうたわれている。

高岡市都市計画マスタープラン

平成 17 年 3 月 16 日に策定した「高岡市都市計画マスタープラン」の都市づくりの目標に「賑わいと活気のある都市づくり」、「自然・歴史・文化を活かした都市づくり」が掲げられ、ものづくり都市として活気のある都市づくり、歴史と伝統が調和のとれた風格のある都市づくりを目指すとしている。

高岡市中心市街地活性化基本計画

平成 19 年 11 月に策定した「高岡市中心市街地活性化基本計画」の目標の一つに「歴史・文化遺産の活用によるまちなか交流人口の拡大」が掲げられ、歴史・文化資産の保存・継承に向けた調査、活用や道路景観の整備などの施策を推進としている。

(4) 課題と今後の方針

現在、高岡市では文化庁の委託事業として平成 20 年度から 22 年度までの 3 ヶ年で「高岡市文化財総合的把握モデル事業」を実施しており、文化財の悉皆調査や「高岡市歴史文化基本構想」の策定作業を行っている。

また、それと並行して「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（平成 20 年法律第 40 号 通称；歴史まちづくり法）」に基づく「歴史的風致維持向上計画」の策定も進めており、この計画の国の認定を目指しているところである。

これらの「高岡市歴史文化基本構想」や「高岡市歴史的風致維持向上計画」などと、「高岡市歴史と文化が薫るまちづくり事業計画」は、その目的や事業内容、対象エリア等において重なり合う事項が多々あるが、これらの制度の使い分けについては、以下のとおりである。

「高岡市歴史文化基本構想」の位置づけ

当該構想は、高岡市全域の文化財の悉皆的な捕捉、高岡の歴史の把握と掘り起こしを行い、関連文化財群の設定や文化財の保存活用にかかる計画を定める

ことにより、歴史文化遺産を活かしたまちづくりのマスタープランに位置づけられるものである。

したがって、「高岡市歴史的風致維持向上計画」や「高岡市歴史と文化が薫るまちづくり事業計画」のまちづくり方針や事業等は構想の基本方針に基づいて実施されるものである。

また、国土交通省や文化庁、富山県などの関係機関の支援施策などは、まちづくりのための具体的な施策・事業展開のためのツールである。

「高岡市歴史的風致維持向上計画」に基づく事業

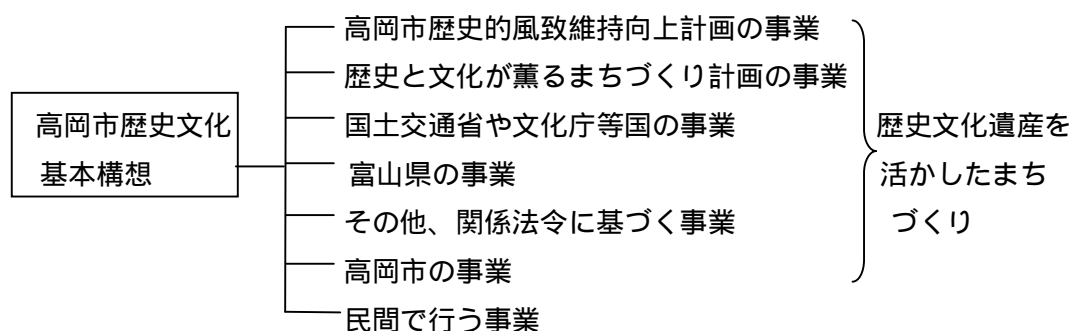
コア事業として、

- ・重点区域(H22年度設定予定)における歴史的風致形成建造物の修理、買収、移設、復元
- ・文化庁が支援する重要文化財建造物等の保存・活用に係るハード整備
附帯事業として、
- ・歴史的風致を損なっている建造物等の景観上の改善
- ・コア事業の対象施設の活用促進に係る施設の整備
- ・上記に関連するソフト事業

「歴史と文化が薫るまちづくり計画」に基づく事業

「高岡市歴史的風致維持向上計画」に基づく支援事業以外の地域に密着した事業で、

- ・まちなみの修景や文化施設等の建造物の修景整備
- ・工芸品や祭りなどに係る施設などの更新、改修
- ・歴史的風致の形成には直接的関わりを持たない歴史上価値の高い建造物(公共施設)の修理・復元
- ・現代的文化に係る施設などの更新・改修
- ・その他、地域資産に係るものの設備など



2 計画区域の特性及び位置、区域

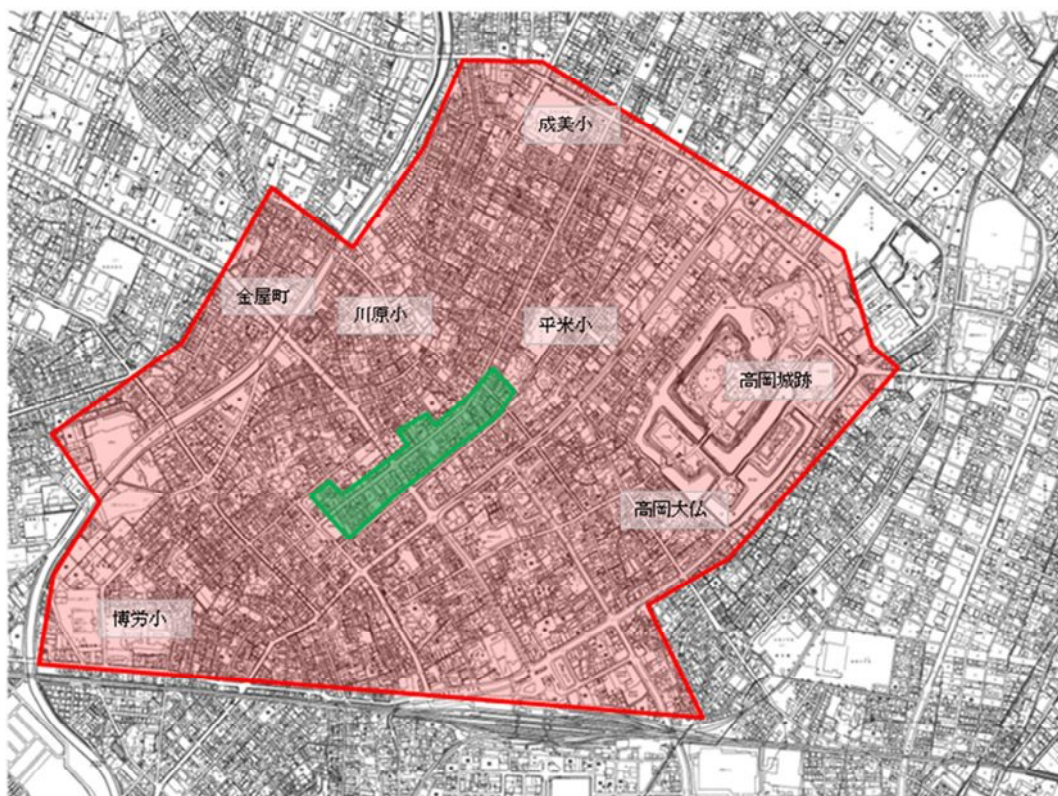
(1) 区域の特性及び設定の考え方



当該地域は、慶長 14 年（1609）に前田利長によって高岡の町が開かれた際、その中心地として町立てされたものである。高岡城を中心に西へ向かって寺院群、商人町である「山町」、そして千保川を挟んで職人町である「金屋町」が町立てされた。

現在でも、高岡の中心街は「高岡市中心市街地活性化基本計画」で定めているように、町立ての頃と基本的に変わっていない。

この計画の区域を設定するにあたっては、高岡の町の歴史的背景、歴史文化資産の集積度及び「高岡市中心市街地活性化基本計画」の設定区域を考慮に入れ、さらに中心市街地活性化基本計画との相乗効果が導き出せるよう線引きしたものである。

(2) 位置及び区域



凡 例	
	伝統的建造物群保存地区 A = 5.5ha
	歴史と文化が薫るまちづくり地区

南側は北陸本線、東側は高岡城跡（高岡古城公園）横の桜馬場通り、北側は県道富山高岡線、西側は金屋町を含む千保川までとする。

(3) 計画区域におけるこれまでの取り組みと現況

計画区域は、高岡市内で最も歴史文化遺産が多く残されている区域である。

高岡市ではこれまで、山町筋を伝統的建造物群保存地区に指定し、国の選定を受けて土蔵造り建造物の修理や建築物の修景を継続的に実施している。また山町筋の町並みを保存するための住民団体である「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」が結成され、人材の育成に努めている。また、山町には国の重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」があり、その保存団体である「高岡御車山保存会」に対する支援も行っている。

景観分野では、優れた景観の形成を図ることを目的とする「池の端通り景観形成推進協議会」を景観形成市民団体として認定するとともに、高岡城跡の水郷に沿った池の端通りを都市景観形成地区に指定し、建築物の修景などを促進してきた。

また最近では、「坂下町通り景観形成委員会」を景観形成市民団体として認定するとともに、山町筋から高岡大仏まで延びる坂下町通りにおいて、富山県景観条例に基づく景観づくり住民協定の締結を支援し、特色ある景観づくりを促進している。

現在、進行中の事業としては、富山県指定史跡「高岡城跡」の保存と活用について市民の意見を聴くため、「高岡古城公園保全・活用方針策定委員会」を組織し協議を進めている。

また、金屋町については、伝統的な町並みを保存するため、市では2箇所目の伝統的建造物群保存地区に指定すべく、住民アンケートや住民説明会を行うとともに、21～22年度の2ヵ年で「金屋町伝統的建造物群保存対策調査」を実施している。今後は、金屋町の住民の推進団体の育成に取り組む必要がある。

3 計画区域内の活用すべき地域資源

(1) 高岡城跡周辺



高岡城跡（県指定）



越の彼岸桜（市指定）



高岡工芸高校実験室



高岡市美術館



高岡市立博物館



高岡万葉まつり



高岡七夕まつり



高岡なべ祭



銅造阿弥陀如来坐像（高岡大仏） 大手町神明社拝殿（市指定）

(2) 山町筋伝統的建造物群とその周辺



山町筋



山町筋



菅野家住宅（国重文）



筏井家住宅（県指定）



旧室崎家住宅（市指定）



佐野家住宅主屋（国登録）



井波屋仏壇店（国登録）



関野神社



高岡御車山収蔵庫



高岡御車山祭



与四兵衛祭

(3) 金屋町及びその周辺



金屋町



金屋町



金屋町鋳物資料館



千保川舟運関連史跡



高岡銅器



旧南部鑄造所（国登録）



御印祭

(4) エリア内のその他の資源



清都酒造場主屋（国登録）



高岡漆器



無形文化財鑄金技術保持者
大沢 光民

- 歴史上の人物（高峰讓吉、孝子六兵衛 等）
- 銅像・碑（大伴家持像、前田利長公遺徳碑 等）
- アニメ（ドラえもん、キテレツ大百科 等）
- 食文化（高岡コロツケ 等）

4 まちづくりに必要な事項

(1) 連携地域資源

人的連携資源

当該計画区域には、いくつかのまちづくり団体が組織されており、その活動内容は次のとおりである。

土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会

土蔵造りを中心とする山町筋の町並みの保存と活用を推進するため、全国の保存団体との交流や勉強会の機会を定期的に設けているとともに、「土蔵造りフェスタ」や「天神様祭り」、「ひな祭り」など、土蔵造りの町並みをPRする事業を毎年継続的に実施している。

高岡御車山保存会

御車山を所有する10か町で構成されている。重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山」の保存・運営する長年の伝統と歴史を誇る団体であり、御車山行事のしきたりを守り、伝えてきている。昨年、富山県内の曳山等を保有する団体に呼びかけて「富山県山(車)・鉾・屋台・行燈祭交流会議」を立ち上げる中心的な役割を果たしている。本年は、高岡御車山保存会の主催で「第1回富山県曳山祭サミット」を開催するなど、他の祭との連携を推進する活動も行っている。

金屋町まちづくり協議会等

金屋町通りの整備に向けて、昭和57年に金屋7か町の住民による「金屋町まちづくり協議会」が設立され、「金屋町通り整備基本計画」が策定され、無電柱化や路面整備事業などが実施された。

また、住民代表、建築士、郷土史家、都市計画の専門家や行政担当者による「金屋町通りまちなみ委員会」が設立され、昭和62年12月の総会で「金屋町まちづくり憲章」が決議された。この憲章は、金屋町の歴史と美しい町並みに誇りを持ち、守り、育て、次世代へと伝えていくまちづくりに努めることをうたったものである。現在でも、金屋町住民はこの憲章の精神を尊重し、建築行為やまちづくりを展開している。

景観形成市民団体

計画エリアには、「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」「池の端通り景観形成推進協議会」及び「坂下町通り景観形成委員会」の3つの景観形成市民団体が組織されている。

の団体については前述した通りであり、及びの団体については、地域の

特色ある景観づくりに向け、先進地視察や住民学習会などを行っている。

その他

計画区域内の団体ではないが、当該区域での活動を積極的に展開している団体もある。

観光ボランティアグループ「あいの風」は、山町筋伝統的建造物群保存地区や金屋町の観光ガイドや「土蔵造りのまち資料館」の解説ガイドなどに関わっている。高岡城跡（高岡古城公園）のボランティアガイド「やまたちばな」は、高岡城跡の勉強会や観光ガイドをしている。

また、まちづくり会社「蔵のまちスクエア」が組織されており、山町筋伝統的建造物群保存地区内で、喫茶・休憩所の経営や「土蔵造りのまち資料館」の指定管理を行っている。

歴史的連携資源

計画区域は、慶長14年（1609）の前田利長による高岡開町、元和元年（1615）の高岡城の廃城、そして城下町から商工業の町へと変貌を遂げ発展してきた歴史の中心的な区域である。

有形の歴史資産として、高岡城を中心に商人町の山町（一部が伝統的建造物群保存地区）職人町の金屋町（伝統的建造物群保存地区の指定に向けて保存対策調査を実施中）銅造阿弥陀如来坐像（高岡大仏；高岡市指定文化財）水運を支えた千保川などがある。

無形の歴史資産は、高岡御車山祭（重要有形・無形民俗文化財）高岡御車山に施されている金工・漆工の工芸品を作り出す伝統産業（技術）金屋町の鑄造作業から生まれた弥栄節と御印祭などがあげられる。

この歴史の流れと計画区域に存在する歴史文化資産を組み合わせると、「高岡町人」と「ものづくり」に支えられて歴史文化遺産が生まれ、受け継いでこられたことが浮かび上がる。

(2) 連携地域資源を活かしたまちづくりのシナリオ

前述したとおり、当該計画区域の歴史文化遺産を活かしたまちづくりのストーリーは、「高岡町人が受け継いできた『ものづくり』の文化」を土台とするものである。

したがって、計画区域の歴史、文化、自然などの資産を、「高岡町人」と「ものづくり」を基軸に、市民や来訪者の興味と関心を高めるストーリーでテーマ付けし、ネットワークでつなぎ、地域住民の日常の暮らしとともに守り、活かしていくことにより、計画区域内の交流につなげる以下のような仕組みづくりが必要である。

ストーリーの創造（点から線へ）

計画区域の「点」としての歴史文化遺産をいろいろなストーリーでつなぐことで「点から線・面へ」と展開し、さらに多くの市民が歴史文化資産の価値を認識し、資産として活用する環境を整える。

景観施策（面への展開）

歴史文化資産を、それらを守り、育んできた周辺環境と調和した景観として体感することは、その歴史文化資産の価値やストーリーをさらに深く理解することになる。そのため、歴史文化資産を周辺環境と合わせて保全していくことで「面への展開」を図る。

遺産から資産としての活用へ

文化財等は現代に残された「遺産」である。しかし、近年の文化財保護の考え方は、「保存」と「活用」の両輪がうまく回ることが重要とされている。したがって、遺す「遺産」から活かす「資産」への拡大が必要である。

地域の人々が、人的あるいは歴史的な背景によって守り伝えられてきた貴重な「歴史文化資産」を保全し、市民や地域が関わる中で活かしていくことにより、歴史文化を活かしたまちづくりを進める。

(3) 具体的事業計画

ストーリーとルートの設定

「ストーリー」と「ルート」は、地域の歴史・文化・自然などの歴史文化資産や活用すべき既存施設の配置等を考慮しながら、テーマをいくつか設定する。

また、「ストーリー」と「ルート」は、歴史文化資産の掘り起こし（調査・研究）が進む中で、順次、追加・変更・調整を行うこととする。

ア．高岡城跡を歩く

高岡城跡は、計画エリアでいちばん最初にものづくり技術が発揮されたところである。高岡城跡を、現在残っているもの、建造当初から変わらずあるもの、城跡の変遷の中で造られあるいは破却されたものなどのエピソードを学び、巡って「高岡城とは」を体感する。

また、高岡城跡は、中心市街地にありながら自然の宝庫である。自然観察の視点で見て歩くのもおもしろい。

関連資産・施設とルート

高岡市立博物館で高岡の歴史の概略を学ぶ。 明丸、動物園を経て三の丸へ 小竹藪 中ノ島（明治期の公園整備で作られた人工の島）

本丸広場 城跡で唯一残る石垣を見学（市民会館付近）

イ．ものづくり見て歩き（鋳物・銅器）

計画区域内には、ものづくり高岡の伝統技術である鋳物や銅器の技を見たり体感できるものや施設が随所にある。それらをルートで誘導し、ものづくり高岡を再認識する。

関連資産・施設とルート

高岡城跡の本丸広場の「彫刻の森」の前田利長像ほかの銅像、高岡城の縄張りを担当した高山右近像（大手口）で高岡城の歴史に触れる。銅造阿弥陀如来坐像（高岡大仏）で高岡町人の大仏に寄せた思いを感じとる。

坂下町の景観が整備された通りを抜けて山町筋へ。山町筋では木舟町の和田彫金工房で伝統技術の彫金を見学、山町筋防災施設のレンタサイクルに乗る。通町展示施設（平成 21 年度整備予定）で休憩し御車山についての知識を得る。金屋町鋳物資料館で近世・近代の時代の工芸技術を学ぶ。「利三郎」で鋳物製作を体験する。金屋町の町並みを歩いて旧南部鋳造所のキューポラと煙突へ

ウ．ものづくり見て歩き（建築物、町並み）

重要伝統的建造物群保存地区の山町筋、石畳と千本格子が美しい金屋町など、同じ近代中期に建てられた建築物でも、その構造や意匠はまったく異なる。それらはおのあの歴史的な背景を持つため、個性あふれるものが建てられたということ建築物の基本的なことも含めて学ぶ。

関連資産・施設とルート

重要伝統的建造物群保存地区山町筋では、高岡市指定「土蔵造りのまち資料館」を見学 重要文化財「菅野家住宅」を見学 富山県指定文化財「筏井家住宅」(非公開) 国登録有形文化財「井波屋仏壇店」(非公開) 赤レンガの富山銀行 国登録文化財「佐野家住宅」などを見て歩く。

佐野家住宅からは、通町展示施設（平成 21 年度整備予定）で休憩し御車山についての知識を得た後、旧北陸街道を歩き、横田橋を渡って金屋町に至る 金屋町鋳物資料館を見学し、金屋町の民家や3つの寺院、町筋にある祠などを見て鋳物師の歴史、建築史に触れる。

歴史文化資産とその周辺の景観形成

以下に掲げた景観は、歴史文化資産を活かすために保全すべきものである。

ア．高岡城跡から周辺を望む景観

- ・朝陽橋から水濠ごしに池の端通りを見る景観

- ・本丸広場から池の端通りを見下ろす景観、あるいは二上山を眺望する景観
- ・本丸広場と二の丸を結ぶ土橋から池の端通りを見る景観
- ・鍛冶丸（高岡市立博物館の前）から水濠ごしに三の丸方向を見る景観

イ．高岡城跡の周辺部の景観

- ・池の端通りの景観（景観形成重点地区）
- ・桜馬場通りの景観（無電柱化事業を施行済み）
- ・城道通りの景観
- ・県道富山高岡線の小竹藪付近の沿線景観

ウ．高岡城跡から高岡大仏、山町筋に至る旧北陸道の景観

- ・高岡大仏周辺の土蔵造りの民家
- ・坂下町通りの下から高岡大仏を望む景観

エ．山町筋の周辺部の景観

- ・重要伝統的建造物群保存地区のスカイラインを維持・向上させるための指定地区の周辺部分（バッファゾーン）の景観保全
- ・屋外広告物等の景観保全

オ．山町筋から金屋町に至る小路の景観

- ・山町筋から千保川にかかる新幸橋と恵比須塔を経て金屋の石畳通りにいたる小路の景観保全（山町筋と金屋町を結ぶ小路として活用する。またこの小路は高岡御車山展示館（仮称）の建設地に隣接するなど立地条件が良好）

カ．金屋町の周辺部の景観

- ・金屋町の石畳通りのスカイラインを維持・向上させるための金屋町の周辺部分（バッファゾーン）の景観保全
- ・屋外広告物等の景観保全

キ．旧北陸街道沿線の景観

- ・定塚町から大仏、山町筋そして金屋町の入口に至るまでの旧北陸街道沿線の景観保全

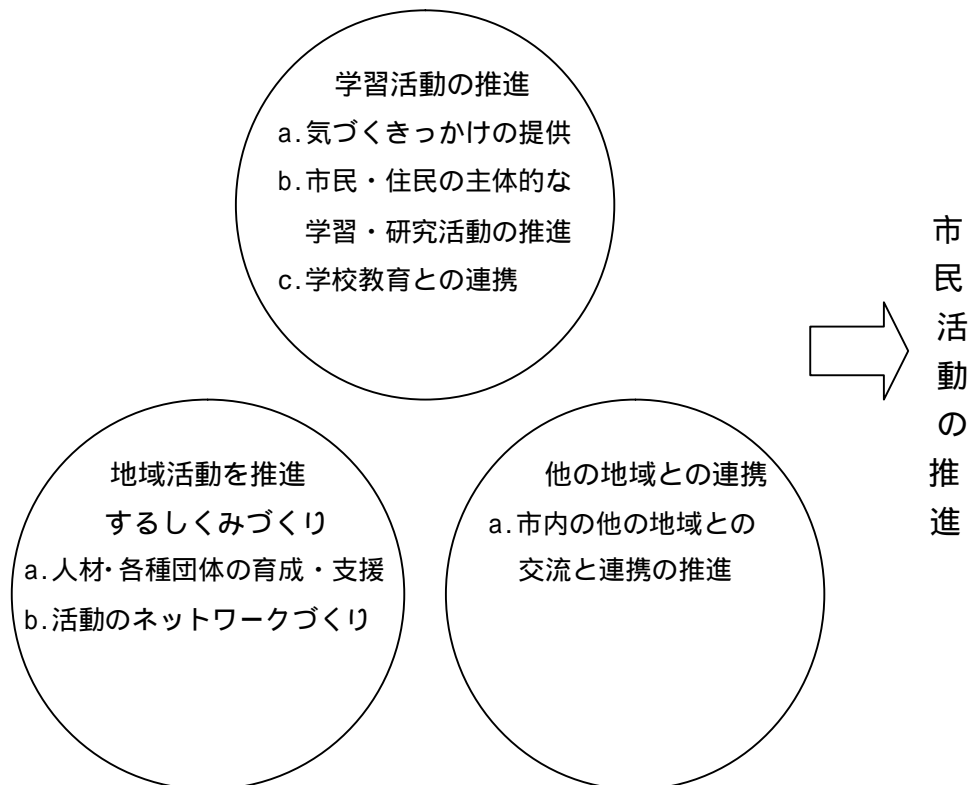
5 資産としての活用

(1) 住民・地域活動の推進の考え方

計画区域の歴史文化資産に対して市民や来訪者が「関心を持つきっかけ」を持ち、地域で「歴史文化資産の実体験」をし、「学習活動・地域活動の展開」を進めていくなかで活用が図られるものであり、活用が進むことで歴史文化資産の地域での一体的な保全が推進される。

そのためには、まず地域のまちづくり団体や観光ボランティアの参画と活動が必要である。参画と活動を支援する仕組みづくりは、以下の枠組みで考えられる。

【市民・住民の地域活動支援の枠組み】



学習活動の推進

a. 気づききっかけの提供

市民・住民や来訪者が当該区域の歴史文化資産に気づき、体験し、学ぶ意欲を高められるよう、見学会の開催や体験プログラムを提供する。また、歴史文化資産に関する講座・出前講座、講演会、シンポジウム等を開催する。

b. 市民・住民の主体的な学習・研究活動の推進

市民や住民が自主的・主体的に歴史文化資産に関する学習・研究活動を進めら

れるよう、市民間のネットワークづくりや学習・研究が進められるしくみづくりを推進する。そのため、各種講座等の市民の参画の促進、活動団体等の人材バンクの登録、市民の学習・研究成果のデータバンク化と情報提供等を行う。

c. 学校教育との連携

児童生徒が区域の歴史文化資産について学ぶ地域学習を推進するため、「地域学習マニュアル」を作成し、学校と地域住民・活動団体とが連携した学習活動を推進する。

地域活動を推進するしくみづくり

a. 人材・各種団体の育成・支援

市民・住民を中心とするさまざまな活動を活発かつ円滑に進められるよう、コミュニティや活動団体などを支援すると同時に、まちづくりに意欲のある人が活躍できるしくみを構築する。そのため、必要な組織づくりや活動の場の提供、活動団体間のネットワークづくり等の支援を行う。また、広く市民がまちづくりに参画できるよう、歴史文化資産を活かしたまちづくりのサポーターの登録制度を創設するなど、まちづくりのリーダーを養成する。

b. 活動のネットワークづくり

市民・住民及び活動団体や組織の間の連携・協働を促進するため、歴史文化資産をテーマとするイベント、会議等を通して関連団体・組織間の交流と連携・協働を図る。

他の地域との連携

a. 市内の他の地域との交流と連携の推進

区域の歴史文化資産に関する情報を発信するため、市内の他の地域の歴史文化資産と関連させるストーリーを構築する。また、周辺市町村とも連携・協働を進め、さらなる広域的な展開を目指す。そのため、全市的な歴史文化資産に関する定期的なイベントの機会をつくるとともに、周辺市町村等と連携・協働した取り組みを進める。

(2) まちづくりの核となる歴史文化資産・関連施設に関する計画

高岡市立博物館

現在、高岡の通史に関する常設展示が行われているが、これらをさらに充実させ、まち歩きの出発点としてふさわしいものとする。合わせて、観光ボランティアなど人的なガイダンス機能の強化を図り、当該区域のセンター的機能を持たせる。

高岡市土蔵造りのまち資料館（高岡市指定文化財）

土蔵造りの建築物である当資料館では、高岡開町時の高岡城を中心とする町の模型の展示や土蔵造りの建築物の解説、及び高岡御車山の衣装展示や解説を行っている。今後は、土蔵造りでの伝統的な生活様式を再現する展示を行うなど、土蔵造りへの認識を深めるとともに、環境にやさしい生活様式の提案ができるような施設として充実を図る。

菅野家住宅（重要文化財）

現在、ミセ、ミセノマ、ブツマ、ホンマを一般公開している。当家では、管理説明員が山町筋伝統的建造物群保存地区や菅野家住宅の解説を行っている。

当家は、所有者のご好意により公開しているものであり、今後も一般公開の継続を行えるよう努める。

高岡御車山展示館（仮称）

高岡御車山展示館は、守山町地内に建設することが決定され、現在「高岡御車山展示館（仮称）建設計画策定委員会」が組織され、施設の内容等についての協議・検討がなされている。この中で、高岡御車山の展示・解説はもちろんのこと、全国の主要な山車を使用する祭の紹介や花傘づくりのボランティア養成のためのスペースの設置、さらには「高岡地域文化財等修理協会」で行う山車等の修理を公開することも検討されている。

当施設が整備された暁には、高岡御車山祭や全国の祭、そして高岡の伝統工芸である漆工、金工等の技術を全国に発信し、「ものづくりのまち高岡」をアピールできる中核施設になるものと期待される。

高岡鋳物資料館

高岡鋳物産業発祥の地である金屋町の歴史や鋳物産業史の紹介、及び鋳物師の道具類を展示している。高岡市では、現在、金屋町の伝統的建造物群保存地区の指定に向けた施策を進めているが、将来的には当資料館を金屋町の町並みのガイダンス機能も持たせた施設として充実させる。

6 歴史と文化が薫るまちの将来像

新しく建て替えられた JR 高岡駅や新幹線新高岡駅（仮称）から大勢の乗客が、「歴史文化都市高岡」を訪れるために出てくる。

高岡を訪れた人々は、高岡城跡や国宝瑞龍寺を訪れ、そこで市民の観光ボランティアによる高岡の歴史文化資産や歴史の解説を聴き、さらに高岡大仏や山町筋、金屋町の伝統的な町並みにも足を伸ばしている。

歴史文化資産を結ぶコースは、高岡の中心市街地であることから、見学の途中で買い物や飲食を楽しむなど、中心市街地の活性化にもつながっている。

見学先の施設では、観光ボランティアや各種団体の構成員が積極的にまちの PR を行うなど、ホスピタリティが市民の間に根付いている。

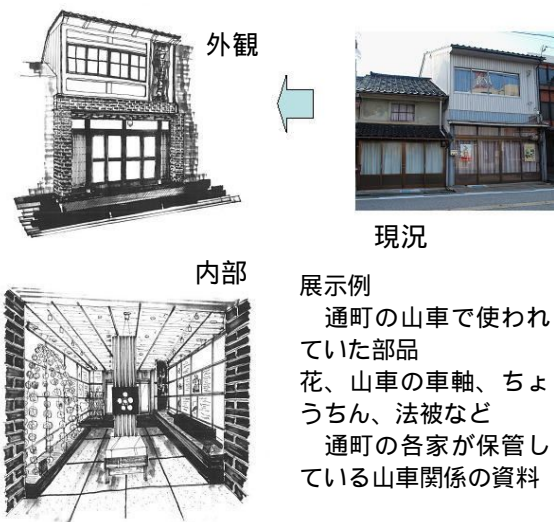
児童生徒は、高岡の歴史文化資産に興味を抱き、休みの日などはモデルコースを歩いたり、自転車で巡ったりしている。

一年を通して、各種団体等の企画・運営による歴史文化資産を活かしたイベントが次々に開催され、まちが賑わいをみせている。

空き家になった伝統的な民家や建造物を守り、後世に伝えていくことを目的とする「市民トラスト」や NPO が誕生し、市民（企業）、行政、大学などの教育機関の協働による事業が進んでいる。

7 歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール

(1) 平成21年度



点を線につなぐための仕掛け作りについて、2点の施設整備を行う。

ア 「通町展示施設」

山町筋から金屋町へ、楽しみながら歩くことができる散策ルートの開始点として、通町において、民家を改修し、御車山に関する「普段着」の展示を行うとともに、交流スペースを設け、観光客と山町の住民が交流できる施設を整備する。

シーズンの休日などには、地元のボランティアガイドが、金屋町への案内と道中の解説を行う。

イ 「金屋町鋳物資料館」



鋳物資料館から金屋本町交差点方向



金屋町緑地から鋳物資料館方向

通町から千保川を渡り金屋町についた観光客を、一番はじめに出迎える展示施設が「鋳物資料館」である。

しかし、現在は、千保川側から鋳物資料館に直接入場することはできず、路地を通過して正面に迂回する必要がある。

このため、鋳物資料館の裏手に整備された金屋町緑地公園から、資料館の敷地に直接入場できる通路を新設（市単独事業）するとともに、来場者に満足してもらえるよう、施設を改修し、展示内容をリニューアルする。



(2) 平成 22 年度以降

(本部分については、最終報告書までの間に、22 年度予算編成等も勘案して作成する)

8 年度別事業費、費用負担割合

	事業主体	21年度		22年度		23年度		計	
		全体	県補助	県補助	負担	全体	県補助	全体	県補助
ソフト事業								0	0
								0	0
		最終報告までに決定						0	0
								0	0
								0	0
		ソフト計	0	0	0	0	0	0	0
ハード事業	通町展示施設	市	4,000	2,000				4,000	2,000
	鋳物資料館	市	6,000	3,000				6,000	3,000
								0	0
		最終報告までに決定						0	0
								0	0
								0	0
								0	0
		ハード計	10,000	5,000	0	0	0	0	10,000